

平成二十四年九月定例会

市役所第一庁舎及び長野市民会館調査検討特別委員会委員長報告

十六番 小林 義直でございます。

私から、市役所第一庁舎及び長野市民会館調査検討特別委員会の中間報告をいたします。

初めに、新第一庁舎及び新市民会館の基本設計に関連して申し上げます。

本年八月に決定されましたこの基本設計は、平成二十三年四月に策定された第一庁舎・長野市民会館建設基本計画に沿うものであるとともに、設計者選定の際のプロポーザル提案に基づいて進められたもので、一階に共用ロビーの「市民交流プラザ」を配置し、庁舎と市民会館を合築する複合施設となっております。

設計は、本年六月に基本設計案が本委員会に示された段階で、委員会調査においては専門的な技術的見地からの検証が必要との判断から、七月六日には設計者である楨総合計画事務所の担当者に参加人として委員会への出席を求め、事前に委員から出された質問等への回答を得るとともに、設計における意図、特徴や配慮した点、委員からの要望に対する実現の可能性などについて所見を聴きました。

後日開催された委員会において委員からは、本施設は大型の複合施設であることから、避難経路等の安全面での配慮を求める意見が出されました。特に市民会館は、非常時には大ホールや地下二階の小ホールなどから同時に多くの来場者が、短時間で混乱なく避難をしなければならぬことから、避難経路の動線や避難口などについて多面的な意見・要望がありました。これに対し理事者からは、「県条例など関係法令を遵守しているが、今後更に検証を行い、必要であれば実施設計の中で対応していく。」との考えが示されたところであります。

また、市民会館の設計については、「車椅子の利用者が増えることを想定した設計にすべき。限られた敷地の中で舞台の大きさをしっかりと確保することが重要で、客席を減らす等の選択肢もあるのではないか。地下一階の楽屋を一階に配置できないか。トイレの数は特に女性用を十分確保してほしい。市民会館専用の出入口を設けられないか。」等の意見・要望等が出されるとともに、庁舎については「ワンストップサービスのスペースは市の要望した面積が確保できたのか。総合窓口は一階に置くべきではないか。福祉窓口は新庁舎の三階よりも第二庁舎の一・二階とつなげてワンストップにしてはどうか。吹き抜けの空間を減らす検討はしたのか。」等の意見が出された他、ユニバーサルデザイン、エレベーターやエスカレーター、駐車場などに対する配慮についても指摘したところであります。

市では基本設計案について、六月下旬から七月下旬まで一か月間のパブリックコメントを実施したところ、合計百五十三名から四百八十六件の意見が寄せられ、そのうち、八項目七十一件の修正を実施したとのことであり、当委員会からも意見・要望があった車椅子用駐車場の確保や避難口の増設、舞台近くへの備品庫増設などへの

対応が図られた他、全体の避難、安全の確保や大ホール舞台の大きさ、トイレの数などは、今後の実施設計において更に検証を継続する考えが示されたところであり、また、福祉部門の窓口は、パブリックコメント等で障害者団体の意見を聴く中で、当初予定していた新庁舎の三階から、第二庁舎一・二階に変更になったところであり、現在の第二庁舎の福祉窓口は、通路やカウンターも狭く、必ずしも良い環境にはないことから、今後、第二庁舎も含めて、更に利用者にやさしく安全な施設にするためにきめ細かな配慮を要望するものであります。

次に、新市民会館の運営管理に関連して申し上げます。

本年四月に策定されました新市民会館運営管理基本計画は、長野市文化芸術振興計画に定める文化芸術拠点としての機能を果たすために必要とする基本方針、事業計画、組織計画、収支計画などの項目についての基本的な方針を定めるために策定されたものであります。この基本計画に基づく具体的な実施内容については、今後、策定される実施計画に委ねられるとされております。

運営管理について委員からは、「直営ではなく、専門家を入れて専門性のある運営にすべきだ。運営主体、組織の立上げ、専門家の人選のスケジュールを示してほしい。検討には地域の状況を知る地元大学等の人材を活用してはどうか。」などの意見が出され、委員会として、運営主体を早期に示すことと、運営管理実施計画を委員会でも議論できるようにすることを要望いたしました。

なお、本委員会については、本年九月までの期間で調査を進める予定でありましたが、今後、新市民会館のオープンに向けてますます重要となってくる運営管理計画や事業計画について議会として議論する必要があるとともに、建設については基本設計が完了し、実施設計が来年三月末を目途に進められておりますが、今後検証するとされた事項について報告を受ける必要があります。

新第一庁舎及び新市民会館は、今後、長期にわたり使用する施設であるとともに、長野市のシンボリック的存在でもあります。市民の皆様が普段から気軽に立ち寄れる場所として、また文化・芸術の拠点として、さらには災害時には頼れる存在として、いつまでも市民に愛され続ける施設となるよう、本委員会は引き続き精力的に調査を行ってまいります。

以上で本委員会の中間報告を終わります。